

火事、災害に万全の備えを
平成30年消防演習を実施

6月24日、平成30年の津別消防演習が、雨天のため場所を変更し、津別小学校体育館で実施されました。

消防精神の高揚と技術の練磨、指揮系統・命令の徹底を目的として行われた演習には、津別消防署から15名、津別消防団から79名、美幌消防団から6名が出動。入場行進、検閲等に続いて分団ごとの小隊訓練が行われ、指揮者の号令の下、統制の取れた動きを披露しました。

また、演習の間にはRECつべつによるリコーダー演奏のアトラクションが行われ、団員らもひととき緊張を緩めて、美しい音色に聴き入りました。



▲分団ごとに行われた小隊訓練の様子

集団生活の大切さを学んだ4日間
小学生15人が通学合宿に参加

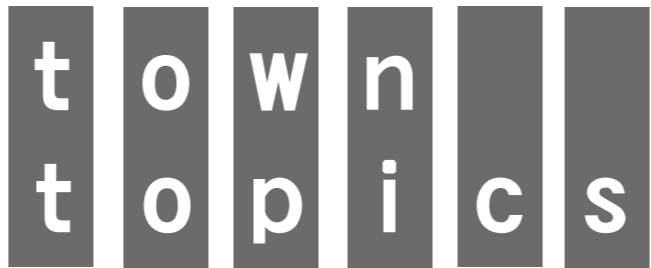
6月20日から4日間、小学生を対象とした通学合宿が行われました。町民会館に3泊4日で自活しながら学校に通うという行事で、4年生から6年生までの15人が参加しました。

食材の買い出しや食事づくり、放課後の宿題や勉強、朝のラジオ体操などを全て自分たちで行い、「自分のことは自分でする」「進んでいろんな役割に挑戦する」などの目標を立て、会場係やお部屋係などの班に分かれ、協力して集団生活を経験しました。

合宿では、高校生ボランティアサークル「ひまわり」メンバーも子どもたちをサポート。また初日のレクリエーションでは、社会教育人材バンク「まなびくぶる」に登録している津別フォークダンス研究会が、ダンス体験の講師を務めました。



▶夜のレクリエーションでは、フォークダンス研究会の指導によるダンスを体験



まちのわだい

ライオンズクラブが費用の一部を寄附
津別小学校でロケット教室実施

小学5、6年生を対象にした「モデルロケット教室」が、6月21日、道内で宇宙ロケット開発に取り組む植松努さん(赤平市・株式会社植松電機代表取締役)を講師に招いて実施されました。

ロケットの仕組みを学び、火薬についての安全で正しい知識を習得することなどを目的とした教室で、町民会館で植松さんの講演を聴いた後、子どもたちは実際にモデルロケット作りに挑戦。津別小学校のグラウンドで発射実験が行われ、手作りロケットが勢いよく打ち上げられました。

また、これに先立つ6月5日、同事業の費用の一部として、津別ライオンズクラブから教育委員会に10万円の寄附をいただきました。



▶寄附の贈呈式



▶植松さんの指導でモデルロケット作りに取り組む

インターネット番組「タウンニュースつべつ」
2作品が北海道映像コンテストで最優秀などを受賞

毎月インターネットで配信している町の広報番組「タウンニュースつべつ」が、北海道映像コンテスト(二社)北海道映像関連事業者協会主催)において、2作品が入選を果たしました。

「#8津別町医療最前線」については、「看取りなど死をテーマにしているにも関わらず、ポジティブで可能性を感じさせる」ことが評価を受けての受賞となりました。



▶番組を制作した地域おこし協力隊の立川彰さん(中央)とレポーターを務める町職員※タウンニュースつべつの詳細は14ページ参照

トランポリン少年団が好成績
全国大会に駒を進める



▲全国出場を報告に訪れたトランポリン協会と町長ら(少年団員のうち1人は欠席)

津別町トランポリン協会(鹿中順一会長)が役場を訪れ、少年団が「北海道ジュニアトランポリン競技選手権大会」で好成績を収め、全国大会に出場することを町長に報告しました。乃村朋紀花さんが女子個人中学生の部で優勝したのを始め、出場者7人全員が全国大会に出場という快挙を成し遂げました。小中学生は、茨城県での全日本ジュニア選手権に出場。高校生は、埼玉県で開催される全国高等学校選手権に出場します。

地域おこし協力隊の
「きんぎょ」

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。



奈良真紀子 札幌市出身。札幌で旅行代理店勤務を経て、夫の実家のある北見市へ移住。協力隊2年目を迎える。

今シーズンの津別峠には、屈斜路湖側の通行再開に伴い、多くの方が見えてくる。

最近の業務は、早朝の雲海、夜の宇宙ツアーの受け入れがメインになるが、心待ちにしたお客様の数に、これまでの活動の影響力のすこさを実感している。

ただ、受け入れには、天気に左右されることもある。お客様を迎え入れるには、安全面の事もあり実施判断も慎重だ。

しかし、たとえ思い描いた景色にならなくても、お帰りの笑顔が見られると天気の良い悪しさが全てではないのだと思つた。弟子屈町の「100km歩こうよ大会」で雨の中

を歩いたことを思い出した。結果的には、豪雨と強風により打ち切りになったが、歩いて見えてくるものもあった。こんな中歩く者同士だから、自己管理や危機管理も芽生え、一体感があつた。各施設や沿道の応援や心配りに気づき、有難く感謝する。翌年には、リベンジを果たしに参加者が増えた。

津別峠でも、リベンジを果たしに来る方に会うことが多い。それだけ再度訪れる旅行者が増えていくということ。考え方で見える景色を変えられる。挑戦やリベンジの先には、新しい発見や出会いがあると思うから。



▶新デザインの婚姻届様式と木製フレーム

双子の桜のイラストで夫婦の門出を祝福婚姻届のデザインを一新
町では、7月から婚姻届の様式のデザインを一新しています。
新しいデザインは、鮮やかなピンク色の様式に、「双子の桜の木」とその下で寄り添うカップルのイラストを大きくあしらったロマンチックなデザインとなりました。
結婚の記念にと、婚姻届様式のコピーを取って保管される方が多いことから、よりお二人の思い出に残るものになればと、新たにデザインされたものです。
さらに津別町に婚姻届を提出した方には、婚姻届様式のコピーを収めることができる木製のフレームが贈呈されます。フレームの素材は、自然環境に配慮して育てられ、「(一社)緑の循環認証会議(SGEC)」により認証を受けた町産のトドマツを使用しています。
婚姻届は、全国どこの市町村にも提出できるので、町外の方からの提出も受け付けています。

なお開庁時間中であれば、受付窓口にてお二人のカメラや携帯電話での記念撮影サービスも受けられます。